令和6年度
鹿児島市小・中学校連携研修会（城西ブロック）

＜グループ研究主題＞

確かな学力と豊かな心を育てる小・中連携の在り方

期　　日 ： 令和6年6月21日(金)

場　　所 ： 鹿児島市立城西中学校

図書室および社会科資料室

令和６年度　市小・中連携研修会（城西ブロック）

１　目　的

小・中学校の円滑な接続のために、小学校と中学校が連携を深め、９年間の学びの連続性を追求することを通して、確かな学力の育成、並びにいじめ・不登校生等の中１ギャップなどの課題解決を図ることを目的とする。

２　主な研究内容

○　「確かな学力の育成」　○「生徒指導（学級経営）の充実」

○「小・中学校の円滑な接続（特別支援教育・外国語）」　○「働き方改革・業務改善」

３　グループの研究主題

確かな学力と豊かな心を育てる小・中連携の在り方

４　期日

令和６年６月２１日（金）

５　会場

鹿児島市立城西中学校　図書室

６　参加校

（１）参加校

ア　会場校　　：城西中

イ　グループ校：西田小，原良小

ウ　関係校　　：草牟田小

（２）参加者及び参加人数

ア　城西中：管理職，各学年担当教諭，特別支援教諭，外国語担当教諭，生徒指導担当教諭
　　学業指導担当教諭

イ　グループ校：各分科会に各校２～３名及び管理職１名

ウ　草牟田小　：各分科会１名以上及び管理職１名

参加校	担当者	参加校	担当者
城西中学校	徳永香奈	原良小	藤﨑　大輝
西田小	鬼塚美穂	草牟田小	西　安代

７　日程

１４：４０～１５：００　受付

１５：００～１６：１０　各分科会での討議

１６：２０～１６：３５　全体会（まとめ・会場校長あいさつ）

１６：３５　　閉会

8　分科会

第一分科会「確かな学力の向上」　　場所：図書室（音楽室側前方）

討議課題　「基礎的・基本的な内容の定着と活用に向けた取組」

第二分科会「生徒指導の充実」　　場所：図書室（音楽室側前方）

討議課題　「積極的な生徒指導の視点に立った取組」

第三分科会「小・中学校の円滑な接続」　場所：図書室（音楽室側後方）

討議課題　「特別支援教育の充実」「外国語教育のカリキュラムの確認」

第四分科会　「働き方改革・業務改善」　場所：社会科資料室（図書室後方入り口より外へ）

討議課題　「業務改善の取り組み」

〈 **分科会の流れ** 〉

１５：００　開会

①　開会の言葉（司会者自己紹介）

②　指導助言者、記録者の紹介

③　会の流れの説明

１５：１０　分科会　　実践発表（各５分）

城西中学校　→　西田小学校　→　原良小　→　草牟田小（紙面で確認）

１５：３０　各分科会において４校共通実践事項についての協議

１６：００　指導助言

１６：１０　閉会のあいさつ　　全体会へ

〈 **分科会の担当** 〉

分科会	司会・進行者	記録者	指導助言者
第一	徳永香奈（城西中）	藤﨑大輝（原良小）	山鹿真人（西田小校長）
第二	大迫克弘（城西中）	佐藤絵里香（西田小）	月俣員貞（原良小教頭）
第三	上荒磯麻由子（城西中）	太良木忍（城西中）	吉岡一徳（城西中校長）
第四	二宮浩一（城西中）	徳永香奈（城西中）	界敏則（原良小校長）

※第三分科会外国語については記録者、指導助言はなし。司会・進行は城西中。

〈全体会の流れ〉

１６：１５　各分科会より共通実践事項の発表（３～４分）

１６：３０　会場校校長あいさつ（城西中校長）

１６：３５　閉会の言葉

・・・参考・・・　昨年度の四校共通実践事項とテーマ

テーマ	四校共通実践事項
確かな学力の向上	○ロイロノートに触れよう タブレット端末の使い方について学年でルールを決めて学級掲示をする。
生徒指導の充実	あいさつレベル５の資料を活用し、小学校から実践する。

参加者名簿　　司会☆　記録○　　指導助言者◎

分科会	場所	城西中学校	西田小学校	原良小学校
第一分科会（学力向上）	図書室 音楽室側前方	徳永香奈【☆】	宮崎 由衣圭	藤﨑大輝【○】
		湯原亮一	田尻 達也	岡山直樹
		大山愛奈		
第二分科会（生徒指導）	図書室 音楽室側後方	大迫克弘【☆】	山元 光平	茶屋道大介
		茶木昌子	佐藤 絵里香【○】	江波慎太郎
		春田淑子		
第三分科会	図書室 3年職員室側	太良木忍（特別支援）【○】	原田 恵二（特別支援）	森永映子（特別支援）
		上荒磯麻由子（特別支援）【☆】		菖蒲谷香（特別支援）
		松比良まどか（外国語）	鬼塚 美保（外国語）	大久保絹代（外国語）
		徳寛香（外国語）		平田美里（外国語）
第四分科会（業務改善）	図書室横 少人数教室	二宮浩一【☆】	宮﨑 博美	濵田真由美
		岩下雅子【○】	中村 弘	米山修一
		梅原淳一郎		
管理職	各分科会会場	吉岡一徳（校長） 【指導助言（第三特支）】	山鹿 真人 【指導助言（第一）】	界敏則（原良小校長） 【指導助言（第四）】
				月俣員貞（原良小教頭） 【指導助言（第二）】

第１分科会　「確かな学力」・・・ICTの活用について

○現状と取り組みについて

・昨年度よりも多くの場面で活用されている。特にロイロノートの活用が進んでいる。

・長期休みの課題などもタブレットを活用されている教科もある。

・道徳や学活での活用も進んでいる。

・個の進度に応じた活用ができている教科もある。

○　課題について

・活用の機会が増えることで、充電が追い付いていない場合がある。

・充電機器の管理や整理整頓。

・使用機会が増えたことで、破損が増えている。修理が追い付かず、代替器が足りないことがある。

○情報交換

・タブレットの端末の仕様が、小学校と中学校では異なることから、１年生ではまた使い方や管理の仕方を確認する必要がある。

・中学校では時間的に自宅でタブレットを起動して行う課題よりも、従来のような紙媒体（副教材やプリントなど）の課題のほうがよいという声が多い。

・充電や保管について、中学校では学年が上がれば生徒の係がしっかりと管理できている。帰るときには必ず保管庫に入れて鍵をかけている。

○共通実践事項

・課題もあるが、活用しながら解決していく方法を見出すことが大切。

・生徒たちはこちらが予想しない使い方をする場合もあるが、失敗をしながら学びを深めていくことが大切。

・進化を続けるICTの活用に、教師側が追い付けるようにお互いに情報交換をしながら研修を深めることに努めていきたい。

第２分科会　「生徒指導の充実」

○現状と取り組みについて

・大きな問題はないが，友人間のトラブルやいじめ，登校しぶり，授業中の落ち着かない言動などの問題を抱えている子どもが少なくない。

・あいさつがよくなってきている。

・中学校では生徒会を中心として校則の見直しなどを行っている。

・すべての教育活動において生徒主体で動ける場面を設定できている。

○課題について

・ネット上のトラブルにどこまで学校が介入できるのか悩む場面が多い。

・中学校に入ってからの人間関係を築くことが難しく、学校に登校できなくなってしまう生徒もいる。

○情報交換

・中学校ではチーム担任制を導入しているので、生徒指導に対しても、一人で抱え込まずにチームとして取り組めている。

・小学校でも学年を一つのチームとして意識して対応できるような雰囲気つくりができつつある。

・スマホの使用、SNS の管理など、保護者にもっと関わってもらう必要がある。

・中学１年生では毎年シャープペンシルを巡るトラブルがある。

・出席日数が進路にも影響があることを保護者にも現状を伝える必要がある。

○共通実践事項

・SNS においては、学校だけで関わるのではなく、必ず保護者とともに対応していく。

・社会の変化に対応できるよう柔軟に対応していく教師側の意識を高める。

・シャープペンシルに関しては、入学前に保護者にも現状を伝え、紛失などに関しては自己管理をしてもらうように伝える。

第３分科会　「小・中学校の円滑な接続」（外国語）

○現状と取り組みついて

・小学校では、高学年でアルファベットを認識できるようにしているが、書くこととなるとなかなか書けない生徒が多い。大文字と小文字の判別が難しい。

・ライティングの線の使い方（４線）を難しいと感じている生徒が多い。

・小文字の形を認識できても大文字とのバランスが難しいようである。

・小学校では AEA の先生と教室担当の先生との TT を行うことが多い。AEA の先生にはなるべく英語で話してもらっている。

・タブレットを活用して、音声を録音して提出する活動を行っている。

・草牟田小では中学校の英語教員が来校して、中１ギャップやスキルアップに役立てている。

・中学校では ALT 来校した際には、なるべく ALT の先生にすべて英語で話をしてもらって、生徒たちが JTE を頼らないで聞き取れるように促している。

○　課題

・中学校では書くことが増えるため、そのことで苦手意識を持つ生徒が多い。

・小学校でアルファベットを覚えた方がよいとはわかっていても、現状として覚えられていない。特に小文字の認識が弱い

・中１の５月になってもアルファベットが書けない生徒がいる。が、できないことばかりを指摘しても英語に対しての苦手意識を強くさせてしまう恐れがある。

・音と文字のつながりが難しいようである。（フォニックスを活用したいが、フォニックスの指導の研修も必要）

・小学校では活動がメインになるため、書くことの時間確保が難しい。

○　共通確認事項

・小学校でも音読を実践し、英語の文字と音とのつながりを自然に理解し、慣れ親しむことができるようにする。中学校でも引き続き音読指導を実践する。

第３分科会　「小・中学校の円滑な接続」（特別支援教育）

○現状と取り組みについて

- 支援が必要な時間の時間割を基に支援員の時間割を作成。一年生を中心に配置しているが，他の学年にも配置することが増えてきている。
- 介助支援が必要な児童には，学習面だけでなく給食や下校時などでも支援をしている。
- 知的・情緒の判断が難しい生徒がいる。
- 支援学級担当教諭だけではなく、それぞれの教科の担当が支援学級の授業を担当している。（５教科）
- 連絡帳を活用して、保護者との連携を大切にしながら学校での様子を伝えたり、家庭での様子を知らせていただいたりしている。

○課題

- 交流学級で受けるべき授業に参加できない生徒がいた時の対応に苦慮している。支援学級担当教諭が他の授業に入っていることもあるため、対応できる職員がいない場合がある。
- 保護者が学習支援を学校だけに任せてしまうところがある。
- 支援の必要な児童保護者に継続的な教育相談を行っているが，同じ内容の確認で終わってしまったり，学校での児童の困り感を理解していただけなかったりする場合もある。

○共通確認事項

- 保護者との密な連絡を行うこと。
- 関係機関とのスムーズな連携が図れるように、管理職やコーディネーターと確実な連絡を行うこと。

第４分科会　業務改善　働き方改革

○現状と取り組み

・　定時退庁日の設定（毎週金曜日に１７時３０分下校）・・・小学校

・　全体職員朝会は週１回にとどめ、SeeSmile を活用している。

・　デジタル教科書を活用し、授業準備や教材研究の時間の効率化を行っている。

・　ICT の効果的な活用により、文書作成や印刷作業などの時間短縮。（アンケートなど）

・　面談や保護者とのやり取りなども勤務時間内に行えるよう、チームで担当する。

・　学校行事の見直しや教育課程の見直し。

・　通知表を年２回にする。

・　スズキ校務を有効活用して、小学校から中学校への名簿の引継ぎを行った。

・　中学校ではチーム担任制を導入し、生徒指導や学級運営が個人に偏らないようにしている。

・　チーム担任制を導入することで、道徳や学活を全員で担当することができている。

○課題

・時期によっては定時退庁が難しい場合がある。

・行事の見直しにおいて、それぞれの行事に趣旨があるため、簡単に削減することが難しい。

・中学校は１年生でのチーム担任制の導入の時期について検討の余地がある。

・定時退庁を意識しすぎるあまり、業務が繰り越されてしまう。

・部活動が負担になっている場合がある。

・朝早く登校してくる生徒への対応。保護者の理解が得られるようになってはいる。

○共通確認事項

・難しい現状があるが、全員が業務改善を意識して取り取り組むことが大切。

・業務改善の一方で、児童・生徒たちへの対応が疎かになってしまわないように配慮する。

アンケート結果

＜日程について＞

・適切な時期であった。

・新入生の様子が少しわかってきた状態時期でよかった。

・５月の末でもよい。

＜内容について＞

・情報交換や共通理解を行えてよかった。

・具体的な指導について話ができてよかった。

・各校の実践が分かり、意見交換もできたので良かった。

・分科会の種類も適切でよかった。

＜参加人数について＞

・適切な人数であった。

・話し合いがしやすい人数であった。

・特別支援では関わっている先生方が参加されていて話しやすかった。